

来て!見て!知って!文化財

最終
回

「花燃ゆ」と熊谷

—語り継がれる歴史物語—

NHK大河ドラマ「花燃ゆ」は、吉田松陰の妹「文」^{ふみ}を主人公に、幕末から明治に生きた人々の姿を描いたものです。「文」と結婚した二人の夫は、「花燃ゆ」と熊谷の地を結びつける人物であると言えます。「文」は最初に、松陰の松下村塾で学んだ長州藩士の久坂玄瑞^{くさか げんすい}と結婚しました。久坂は尊王攘夷派の急先鋒として知られ、禁門の変によって自刃しました。文久元年(1861)5月、久坂は佐久間象山を訪ねた信州からの帰りに大里青山の根岸家(写真)に滞在しています。その当時、根岸家は米や炭などの売買を通じて、長州藩の産物交易の一翼を担っていたと言われています。久坂と根岸友山(伴七)は互いに書簡をかわすなど親しい間柄が伝えられており、友山は、長州藩の人々との交流を通じて徐々に反幕の意識が高められたことが推察できます。

久坂が没した後も激動の幕末を生き抜いた「文」は、長州藩・毛

利家に身を寄せました。名前を「美和子」に変え、熊谷県の県令(現在の知事)を務めた楫取素彦^{かとりもとひこ}と再婚します。楫取は、根岸友山・武香の父子とも親しく、根岸家に度々滞在しています。



幕末から近代熊谷の歴史を彩る根岸家

明治6年(1873)6月15日、群馬県(第1次)と入間県が合併して熊谷県が成立。その後、熊谷県令に就任してからは、熊谷を中心に、広大な県の行政に尽力しました。新たな群馬県の成立により短命に終わった熊谷県ですが、その頃は世界文化遺産「富岡製糸場」の草創期にも当たり、様々な史実が残されています。こうした熊谷の歴史物語も貴重な文化遺産の一つです。未来へ語り継いでいくことが私達の役目なのかも知れません。(山下祐樹)

◆江南文化財センター ☎048-536-5062